

筑波大学は学内外の研究者に起業家の視点を植え付ける「アントレプレナー育成プログラム」を本格化させる。13日から文部科学省の委託事業として、研究者向け集中プログラム「イノベーションTsukuba2015」を2016年2月未まで全5回で行う。

つくばの新たな挑戦 ⑧

イノベーションエコシステムの構築

これにより、研究開発や事業化が自発的に巻き起る「イノベーション・エコシステム」の構築を目指す。

事業化見据えて

「より出口に近い教育を行い、終わった頃には起業できるようなものになりたい」。筑波大の三明康郎副学長は

起業家育成プログラマ

るため、米国で成果を上げていくシリコンバレー発の起業家トレーニング手法「リーン・ローンチ・パッド」を取り入れる。

まずロボ分野で

同手法は想定している顧客に直接ヒアリングしてニーズを聴取り、事業計画の作成に生かす。ラーニング・アントレプレナーズ・

まずロボ分野でイクス分野をテーマとしており、学内外から約20人が参加を予定。来年度以降はプロダクトデザインなど芸術系や医療など筑波大が特に力を入れている他の分野についても扱う計画だ。

ラボ（東京都千代田区）の共同代表でベンチャー企業（VB）投資経験が豊富な堤孝志氏と飯野将人氏が講師を務める。

ラボ（東京都千代田区）の共同代表でベンチャー企業（VB）投資経験が豊富な堤孝志氏と飯野将人氏が講師を務める。

シリコンバレー流導入

力を含める。単なる事例研究ではなく、自らの研究の事業化を意識し、実践的かつ長期的な視点で事業創出の取り組み方法を学ぶ。

ラボ（東京都千代田区）の共同代表でベンチャー企業（VB）投資経験が豊富な堤孝志氏と飯野将人氏が講師を務める。

力を含める。単なる事例研究ではなく、自らの研究の事業化を意識し、実践的かつ長期的な視点で事業創出の取り組み方法を学ぶ。

ラボ（東京都千代田区）の共同代表でベンチャー企業（VB）投資経験が豊富な堤孝志氏と飯野将人氏が講師を務める。



クリエティブ・キャンプで教壇に立つ森川氏（筑波大提供）

↑ nnel（東京都渋谷区）社長の森川亮客員教授は「講義を受けたことで本人たちの意思は明確になつていった」と振り返る。TCCは来年度以降も起業家育成プログラムの一環として継続する。

海外交流も計画

（C）を開いた。筑波大出身者を中心とする経営者陣が講師となり、起業プラン作成や一般発案海外のトップ大学と連携。現地の起業家育成講師を招いたり、Yonを実施。約90人の筑波大側から受講者を海外派遣するなど人材交流も計画している。（隔週木曜日に掲載）